

資料2

成長と分配の好循環の実現に向けたマクロ経済運営の在り方
ー モダン・サプライサイド・エコノミクス (MSSE) の考え方

2023年3月30日
福田 慎一

モダン・サプライサイド・エコノミクス (MSSE) の重要性 —米国イエレン財務長官が中心に進めているバイデン政権の成長戦略

- MSSE = 現代版の供給重視経済学：
経済成長の実現に向けて、人的資本の蓄積、インフラの整備、研究開発の促進、環境対策の推進などを優先
- 「新しい資本主義」とも多くの点で共通した考え方
- **かつての供給重視経済学 = サプライサイド・エコノミクス (SSE) とは大きく異なる！**
- SSE = 新自由主義：小さな政府、減税や規制緩和で民間投資を喚起
- 例、レーガノミクス、サッチャーの経済政策
- MSSE：潜在成長率を中長期的に押し上げるには、それを支える政府の役割も重要
- なぜいまMSSEなのか？
- かつてはなかった新しい課題の出現：GX、DX、格差問題
- GXやDXによる産業の育成や、有能な労働力の確保は、今後の成長のエンジン
- 政府の役割：「市場の失敗」を解決
- GX：地球温暖化は市場の失敗（外部不経済、共有地の悲劇）
⇒ 自由競争では脱炭素化は実現できない
- DX: ネットワークの外部性、情報の利活用
⇒ 政府による共通基盤・制度整備
- 格差問題：オートメーション化、デジタル化、AIの出現
⇒ さまざまな労働の価値を低める
⇒ 人的資本を高めるための再教育の必要性

日本の特殊事情：きわめて厳しい財政事情の中でのMSSE

- 日本の政府債務
- 数字上わが国の現状はきわめて深刻。
- 巨額な政府債務は、成長にマイナスであるだけでなく、世代間の格差を拡大
- MSSE
- 潜在成長率を中長期的に押し上げるための政府支出の重要性
- 支出を一律に削減する緊縮財政は好ましくない。
- 民間の投資や労働供給を誘発する政府支出は必要。
- 脱炭素化ための補助金
- 少子化の流れに歯止めをかけるための対策も不可欠。

⇒ きわめて厳しい財政事情の中でMSSEの考え方をどのように実現していくか？

- 賢い財政支出（ワイズ・スペンディング）
- 政策目標を明確にし、効果が確認された支出のみを実施すべき。
- 実現は難しいがやるしかない！
- 財源
- まずは費用対効果が小さい歳出を削減。
- 社会保障関係費の抑制も避けられない。
- しかし、わが国の政府債務は、それだけでは到底解消できない規模。
- 今後起こりうる危機に備え、平時のうちに財政の健全化が必要。
- 増税や社会保険料の引き上げの道筋を示すことは、危機を未然に防ぐと同時に、将来世代の負担軽減という点から不可避。
- 炭素税によるGX経済移行債の償還財源。

MSSEは財政赤字を容認する理論ではない！ マクロ経済学における2つの考え方

- 長期の経済成長：供給サイドの経済学
- インフラ投資、子育て・教育・温暖化対策
⇒ 政府の役割が重要！
- 潜在成長率を中長期的に押し上げ
- 政府債務拡大は限定的
- 短期の景気対策：需要サイドの経済学＝ケインズ経済学のアプローチ
- 不況期に、需要不足を補うため、財政支出の拡大や金融緩和が必要
- 景気が回復した場合には、過去の政府債務を償還し、金融緩和もやめることが重要
- しかし、景気回復後の債務償還が不十分になる傾向
- 日銀の異次元の金融緩和も、政府債務拡大につながりやすい
⇒ 中長期的な成長にはむしろマイナス
- **MSSEを理由に、政府債務を過度に拡大することは避けるべき！**
- MSSEでも、市場経済における競争がイノベーションの源泉
- 政府の役割は、「市場の失敗」を是正すること
に限定すべき
- 政府による市場への過度の介入は、成長にはマイナス
- かつてのSSE（＝新自由主義）が主張した「規制緩和」は依然として重要
- 「市場」ができることは、「市場」に任せることが重要
- 市場メカニズムは、本源的には効率的
- 政府の機能は、市場を補完すること
に限定
- 効果が確認された政府支出のみを実施
- 市場と政府による最適なポリシーミックス